都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

—添付様式7— 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

—添付様式8— 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

—添付様式9— 有識者からの意見聴取

パブリックコメント実施後に作成

(1) 成果の評価

添付様式1ー① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	—								
公園	—								
河川	—								
下水道	—								
駐車場有効利用システム	—								
地域生活基盤施設	(緑地) ポケットパーク整備事業	10.5	N=1箇所、A=60㎡	22.9	N=1箇所、A=150㎡	詳細設計成果による整備面積拡大及び事業費の増	影響なし	●	
	(耐震性貯水槽) 防災設備整備事業	65.0	耐震性貯水槽3基 (100t、100t、40t)	54.3	耐震性貯水槽3基 (100t、100t、40t)	実績による事業費の減	影響なし	●	
高質空間形成施設	(カラー舗装) 道路修景整備事業	100.0	L=570m	98.8	L=650m	地元代表者会議を設置し実施した 詳細設計成果による整備延長の 増、実績による事業費の減	影響なし	●	
	(照明施設) 街路灯整備事業			69.8	N=50基	電線類無電柱化整備事業から分割 追加、詳細設計成果による事業費 の増(24.6→69.8百万円)	影響なし		●
	(無電柱化整備) 電線類無電柱化整備事業	1,174.4	本体L=1.24km 連系L=0.33km	1,097.2	本体L=1.54km	街路灯整備事業を分割	影響なし		●
高次都市施設	(観光交流センター) 積翠荘跡地利用整備事業	200.0	A=520㎡	110.0	A=520㎡	構想策定による施設規模の縮小及び 事業費の減	影響なし	●	
既存建造物活用事業	—								
都市再生交通拠点整備事業	—								
土地区画整理事業(都市再生)	—								

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
住宅市街地 総合整備事業	—								
地区再開発事 業	—								
バリアフリー環 境整備事業	—								
優良建築物等 整備事業	—								
住宅市街地 総合整備 事業	—								
街なみ環境整 備事業	—								
住宅地区改良 事業等	—								
都心共同住宅 供給事業	—								
公営住宅等整 備	—								
都市再生住宅 等整備	—								
防災街区整備 事業	—								

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	由緒書き整備事業	8.1	歴史的風致に関する 看板整備	9.0	歴史的風致に関する 看板整備	設計成果による事業費の増	影響なし	●	
	水のまちづくり推進事業	45.0	既存施設高質化、新 たな水利用施設整 備	40.0	既存施設高質化、新 たな水利用施設整 備	事業精査による事業費の減	影響なし	●	
	積翠荘跡地利用整備事業	200.0	A=520㎡	55.0	A=520㎡	構想策定による施設規模の縮小及 び事業費の減	影響なし	●	
事業活用調査	事業効果分析調査	2.0	事後評価関連調査	2.0	事後評価関連調査	—	影響なし		●
	—								
	—								
まちづくり 活動推進事業	市街地交通対策事業	12.0	交通社会実験の実 施交通対策計画の 策定	25.1	交通社会実験の実 施交通対策計画の 策定	交通実態調査に係る事業費の増	影響なし	●	
	まちづくりフォーラム開催	1.0	N=1回	1.0	N=1回	—	影響なし		
	防災対策基本構想ワークショップ	5.0	3回/年、3年間で対 象地区全て実施	6.6	3回/年、3年間で対 象地区全て実施	事業費の精査による増	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画			
長良川鉄道郡上八幡駅舎周辺整備事業		長良川鉄道郡上八幡駅舎周辺	85.0	188.3	平成27年度～平成28年度	平成27年度～平成28年度	計画通り竣工し、鉄道玄関口 と公共交通バス拠点、観光案 内所として機能している。		
防災対策マニュアル策定事業		整備地区対象区域内	1.0	0.7	平成27年度～平成29年度	平成27年度～平成29年度	計画通り防災ワークショップと 並行実施によりマニュアル配 布し、防火啓発に繋がった。		
郡上市歴史資料館整備事業		整備地区対象区域内	—	661.6	—	平成28年度～平成29年度	計画通り竣工し、企画展を通 じ市民の文化意識の醸成に 役立っている。		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	見込み	見込み	見込み	見込み	あり	なし				
指標1 町並みの美しさに関する住民満足度	「町並みの美しさ・たたずまい」に対する満足度について、5段階評価の住民アンケート調査を実施し、十分満足を2点、まったく不満を-2点として点数化してその平均点を算出。	点	—	—	0.71	H26	0.90	H31	モニタリング			モニタリング			●	
									事後評価	確定 ●	見込み ●	0.67	事後評価	△		
指標2 災害に対して不安を持つ人の割合	八幡町中心市街地の課題に関する住民アンケートを実施し、「火事、地震等の災害に対する不安がある」と回答した住民の割合を計測。	%	—	—	37.7	H26	30.0	H31	モニタリング			モニタリング			—	—
									事後評価	確定 ●	見込み ●	25.3	事後評価	○		
指標3 八幡中心市街地の人口の転入超過数	令和2年1月1日から12月31日までに八幡町中心市街地(都市再生整備計画の区域)への転入者数と転居者数、および八幡町中心市街地からの転出者数・転居者数を計測し、転入超過数を算出。	人	—	—	-18	H26	±0	H31	モニタリング			モニタリング			●	
									事後評価	確定 ●	見込み ●	-39	事後評価	×		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	町並み景観の向上に繋げる事業として、電線類無電柱化整備事業、道路修景整備事業等を計画・実施したが、景観向上の効果が大きいと考えられる無電柱化整備について、抜柱が完了していない段階での実績値計測(アンケート調査)となったこと、また、従前値計測時は景観計画策定や郡上八幡市街地まちなみづくり町民協定の期間延長直後であったことが、数値を下げた理由として考えられる。今後、無電柱化事業が完成し、景観計画の見直しや町民協定の期間延長などに取り組む予定があり、目標達成は近いと思われる。	無作為抽出によるアンケート調査結果から導き出しており、選ばれる対象者によりある程度の変動があるとと思われる点が指標設定における課題として残った。
指標2	市街地南部の水利不足地帯に、3基の耐震性貯水槽及び島谷用水からの圧送ポンプで導水する施設を整備し水利充実を図ったこと、防災ワークショップを開催し、地区単位の火災対策マニュアルを作成、全戸配布したことで、災害に対して不安を持つ人の割合が減少し、目標値を上回る結果となった。	無作為抽出によるアンケート調査結果から導き出しており、選ばれる対象者によりある程度の変動があるとと思われる点が指標設定における課題として残った。
指標3	大半が市外への転出超過という結果であり、その傾向として進学・就職時期の異動が多いが、これは高校卒業後に通える進学先が少ない本市ならではの自然増減と似た現象と捉える。気になった点は、郡上市八幡町内で整備計画区域内から整備計画区域外への転居者(出)が多く見られたことである。いずれにしても、自然増減を除いても1年以内に転出超過を転入超過へ導くのは困難である。	今回の計測は区域内に絞った異動人数を着実に計測したため、手作業しか方法がなかった。そのため、今後において同様の指標を用いる場合は、機械的に統計が可能な手法を用い、進学や就職による地元出身者の転出を考慮して、目標設定するなどの工夫が必要がある。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
				基準 年度		基準 年度			
その他の 数値指標1	まちなかに賑わい・活気がないと答えた人の割合	%	—	—	32.2	H26	モニタリング	28.9	道路修景整備事業を実施した今町～新町では、近年、飲食店、小売店の新規出店が目立つため、道路空間の再構築が「賑わい・活気がないと思う人の割合減少」に寄与したと考えることが可能なため。
							事後評価		
その他の 数値指標2	—						モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3	—						モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・市街地交通対策事業において交通社会実験を実施したことで、市民の間で問題意識の醸成と規制誘導等の交通対策施策への関心が高まり、良好な町並み景観を形成するための要素のひとつでもある交通環境の改善に向けた足掛かりとなった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
—	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
防災ワークショップの開催	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	【実施年度】平成27年度～平成29年度 【対象地区】区域内地区会単位 39地区 【実施頻度】年3回 【実施結果】火災防災を対象に、自助、共助、公助について話し合い、各地区の課題や取り組みを整理し、地区別の火災対策マニュアルとしてまとめた。	アフターコロナを見据えた住民参加の在り方を検討し実践していく。
—	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
既存組織である郡上八幡市街地まちづくり協議会との協力	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由 事実上の活動休止)	平成10年度の設立以降、市街地まちづくり事業で協力体制を構築してきたが、平成26年度以降は目立った活動がなく、メンバーの固定化、少人数化もあり、計画期間内の再始動に至らなかった。	○郡上八幡市街地まちづくり協議会	再始動へ向けて動き出した際には協力体制が構築できるよう進めていきたい。
—	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会 (郡上市歴史的風致維持向上計画庁内検討チーム)	都市住宅課、社会教育課	令和3年1月	都市住宅課 (都市再生整備計画事業主管課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		その他指標1							
指標名		災害に対して不安を持つ人の割合		まちなかに賑わい・活気がないと答えた人の割合							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見		
基幹事業	地域生活基盤施設・ポケットパーク整備事業	○	耐震性貯水槽整備による消防水利不足の改善、防災対策基本構想ワークショップの実施による防火啓発及び各地区防災マニュアルの作成配布を通じて、防火意識が向上し、目標値を上回る成果が見られた。	—	道路空間の再構築と高質化により、通り全体の雰囲気良くなり、並行して進められた空き店舗活用支援なども相まって、町に賑わいや活気を与える一助となったことが想定される。						
	地域生活基盤施設・防災設備整備事業	◎		—							
	高質空間形成施設・道路修景整備事業	—		◎							
	高質空間形成施設・街路灯整備事業	—		—							
	高質空間形成施設・電線類無電柱化整備事業	△		—							
	高次都市施設・積翠荘跡地利用整備事業	—		—							
提案事業	地域創造支援事業・由緒書整備事業	—				—					
	地域創造支援事業・水のまちづくり推進事業	○				—					
	地域創造支援事業・積翠荘跡地利用整備事業	—				—					
	事業活用調査・事業効果分析調査	—				—					
	まちづくり活動推進事業・市街地交通対策事業	—				—					
	まちづくり活動推進事業・まちづくりフォーラム開催	—				—					
	まちづくり活動推進事業・防災対策基本構想ワークショップ開催	◎				—					
関連事業	長良川鉄道郡上八幡駅舎周辺整備事業	—		○							
	防災対策マニュアル策定事業	◎		—							
	郡上市歴史資料館整備事業	—		—							

※指標改善への貢献度

◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。

—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	歴史的価値が高いとされる木造家屋が密集する当地区においては、引き続き必要な防火対策を実施すると共に、他の災害対策と合わせた総合的な満足度向上を図る。	賑わい・活気がないと回答する人の割合がより一層低くなるよう、庁内連携を強化して総合的なまちづくりの展開を図る。
-------	--	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標3													
指標名		町並みの美しさに関する住民満足度		八幡中心市街地の人口の転入超過数													
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類						
基幹事業	地域生活基盤施設・ポケットパーク整備事業	△	中心部の道路空間高質化など、町並み景観の向上に繋がる推進してきたが、最も効果を期待していた伝統的建造物群保存地区内の電線類無電柱化整備に関して評価時点で未完成であったこと、繰越	△	事業実施によるまち全体の魅力向上による効果を期待して指標を設定したが、指標に直接影響を与える事業がなかったことが、未達成となった大きな要因であった。												
	地域生活基盤施設・防災設備整備事業	—		—													
	高質空間形成施設・道路修景整備事業	△		△													
	高質空間形成施設・街路灯整備事業	×		—													
	高質空間形成施設・電線類無電柱化整備事業	×		△													
	高次都市施設・積翠荘跡地利用整備事業	△		—													
地域創造支援事業・由緒書整備事業	—	事業の進捗やコロナ禍も相まってフォーラム開催を見送ったこと、また、近年、町家の建替えや取り壊し増えている状況が見受けられることから、従前値を下回る結果となった。		—													
地域創造支援事業・水のまちづくり推進事業	—	—															
地域創造支援事業・積翠荘跡地利用整備事業	—	—															
事業活用調査・事業効果分析調査	—	—															
まちづくり活動推進事業・市街地交通対策事業	—	—															
まちづくり活動推進事業・まちづくりフォーラム開催	—	—															
まちづくり活動推進事業・防災対策基本構想ワークショップ開催	—	—															
関連事業	長良川鉄道郡上八幡駅舎周辺整備事業	△	—														
	防災対策マニュアル策定事業	—	—														
	郡上市歴史資料館整備事業	—	—														

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 —：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	電線類無電柱化整備の早期完成を目指し、完成後におけるフォローアップ調査を実施する。また、改めて町並み保存に対する意識向上を図るため、今後において景観計画の見直し、町並みづくり町民協定(任意協定)の締結期間延長に取り組むことで、満足度が向上するよう努める。	事業との直接的な関連がない指標であり、転出超過の要因が分析可能であることから、今後においては計測方法の工夫などを試み、指標数値の改善が図られるよう努める。			
------------------	---	---	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会 (郡上市歴史的風致維持向上計画庁内検討チーム)	都市住宅課、社会教育課	令和3年1月	都市住宅課 (都市再生整備計画事業主管課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
・歴史的建造物およびその町並み景観に関する課題:本市は人口減少と高齢化が進行しているが、特に八幡中央地区はその動向は顕著となっている。高齢夫婦のみの世帯も多く、若年層の居住者が減少していることから、歴史的建造物の修理・修景意欲が低く、その結果、歴史的建造物の空き家化や空き地化が進んでいる。更に、張り巡らされた電線類や老朽化した道路面が良好な景観を阻害する要因となっている。	郡上八幡北町伝統的建造物群保存地区における無電柱化事業に着手(R3年度に完成見込)した。また、景観を阻害する老朽化した道路面の再整備が着実に進んでいる。	無電柱化整備の早期完成、若年層居住者の減少対策、歴史的建造物の修理・修景に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> ・無電柱化整備への関心が高まり、次の無電柱化整備に対する期待が高まっている。(事後評価アンケート調査結果より) ・コロナ禍で閉館したセンター施設の住民や観光客に対する幅広い周知、アフターコロナへ向けた有効活用を求める声が寄せられている。(事後評価アンケート調査結果より)
・防災面の脆弱性に関する課題:八幡中央地区は木造建築物が密集しており、道路幅員が狭いことも含め、火災に対して脆弱な状況となっている。一方で、これらの建物は歴史的価値が高いものも多いことから、地区単位での防災体制の強化や防災設備の充実が大きな課題となっている。	地区単位のワークショップ開催、火災対策マニュアル作成・配布による防火意識の向上及び耐震性貯水槽等の整備による防災設備の充実が図られた。	延焼防止帯の設定など更なる防火対策の推進、地区防災組織の活性化	
・伝統文化の継承に関わる課題:少子高齢化やライフスタイルの変化等に伴う伝統文化に対する住民意識の低下、伝統的技術を身につけた人材の減少等により、祭りや工芸等の伝統文化の継承が困難になってきている。	直接寄与した事業は無いが、文化財部局により継続的な用具等購入支援が行われている。	人的継承に対する支援	
・伝統的水利用の継承に関わる課題:生活のためにしつらえられた水屋、カマド、共同井戸や、水路の分水のためのセギ板等については、ライフスタイルの変化や組織の高齢化、人口減少により維持管理体制が弱体化し、設備の老朽化が進んでいる。	由緒書看板整備により、伝統的水利用施設の価値を再認識するきっかけ作りとなった。	維持管理体制の弱体化と老朽施設への支援	
・観光客の増加等による交通面での課題:八幡中央地区は、城下町特有の都市構造から狭隘な道路が多く、また昨今の観光客の増加により、ピーク時にはパニック的な交通混雑が見られるようになってきている。また、郡上八幡市街地中心部への観光車両の流入や、これを受けての民地の駐車場化により、更なる混雑を招く悪循環も見られる。	交通社会実験を実施したことで、問題意識の醸成と規制誘導等の交通対策施策への関心、気運が高まった。	(アフターコロナを見据えた)具体的な交通対策の導入検討	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	【町並み景観】 歴史的建造物の修理修景意欲の向上	歴まち法に基づく歴史的風致形成建造物制度を活用し、歴史的建造物の保存に向けた取り組みに着手する。	・街なみ環境整備事業の活用による歴史的風致形成建造物に対する修理修景助成 ・(上記以外の)歴史的建造物に対する修景助成
	【町並み景観】 老朽化した道路面の再整備	街なみ環境整備事業を活用し、引き続き道路空間の美装化、高質化を推進する。	・街なみ環境整備事業の活用による計画的な道路美装化の推進
	—	—	—

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策	【伝統的水利用施設】 施設老朽化対策	市で管理する施設に老朽化が見られた場合は積極的な修理修景整備を施し、民間所有施設については歴史的風致形成建造物制度の活用も検討し、必要な支援体制を構築する。	・街なみ環境整備事業の活用による歴史的風致形成建造物に対する修理修景助成
	【交通対策】 社会実験結果を踏まえた具体策の実施	社会実験により住民の関心、気運は高まっており、実施可能な施策から徐々に推進していく。	・舗装色や外側線の工夫による歩行者動線の確保 ・規制誘導策の導入には、十分な合意形成を図る
	【アンケート調査結果より】 次期無電柱化計画、センター施設の有効活用	現段階では、次期無電柱化の計画はない。また、センター施設は所管課と関係課で有効活用を図る。	・センター施設(郡上八幡まちなみ交流館)の周知広報活動の強化

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・中心市街地を目指す人(市民、観光客)のための駐車場対策と路上駐車対策の必要性を求める意見あり。(事後評価アンケート調査結果より)
→八幡都市計画マスタープランでも、交通対策の一環として課題に挙がっており、今後において必要な方策を検討する。
・数年来、整備計画区域内の中心市街地にスーパーマーケットが1軒も無い状態となっているため、買い物弱者支援を求める意見あり。(事後評価アンケート調査結果より)
→撤退した時点から課題として挙げられており、改めて八幡地域の課題としてアンケート結果の庁内共有を図る。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画					
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項			
指標1	町並みの美しさに関する住民満足度	点	0.71	H26	0.90	H31	確定 ●	見込み ●	0.67	△	あり ●	なし	→	令和3年度	「町並みの美しさ・たたずまい」に対する満足度について、5段階評価の住民アンケート調査を実施。	
指標2	災害に対して不安を持つ人の割合	%	37.7	H26	30.0	H31	確定 ●	見込み ●	25.3	○	あり —	なし —	→	—		
指標3	八幡中心市街地の人口の転入超過数	人	-18	H26	±0	H31	確定 ●	見込み ●	-39	×	あり ●	なし ●	→	令和3年度	計画区域内に係る転入、転出、転居の計測を実施する。	従前値の再検証が可能であれば、計測方法を工夫して実施する。
指標4	—						確定	見込み			あり	なし	→	—		
指標5	—						確定	見込み			あり	なし	→	—		
その他の数値指標1	まちなかに賑わい・活気がないと答えた人の割合	%	32.2	H26			確定 ●	見込み	28.9				→	—		
その他の数値指標2	—						確定	見込み					→	—		
その他の数値指標3	—						確定	見込み					→	—		

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・事業と直結した数値目標は、しっかりと結果が伴っている。	・定量的指標は、実施事業と直接的な関連があり、算出方法が容易な数値を用いることで、わかりやすい評価に繋がる。
	うまくいかなかった点	・数値目標の算出方法が複雑かつ手間が掛かるものとなってしまった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・指標1、指標2は事業との紐付けが明確にできていた。	・事前評価時に数値目標と事業の紐付けを明確にしておくことで、モニタリングや事後評価時の円滑な評価実施に繋がる。
	うまくいかなかった点	・指標3はどの事業とも直接的な紐付けが無く、目標を達成していたとしても明確な根拠が示せないものになっていた。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・事業によっては、住民参加を促しながら実施することができた。	・今後においては、都市再生推進法人制度の活用なども検討が必要である。
	うまくいかなかった点	・まちづくり団体との連携が上手にできなかった。	
PDCAによる 事業・評価 の進め方	うまくいった点	・アンケート調査を取り入れ、事前、事後ともに、その時点の町の声を聞くことができた。	・アンケート調査サンプル数は、計画の区域、事業規模や内容に合わせた調整が必要と思われる。
	うまくいかなかった点	・繰越事業の進捗を待ったことで、事後評価の着手が遅れてしまった。	
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

予定なし(令和3年3月時点)